



行商従業者証



営業所標識



NEWS, TOPICS, INFORMATION, OPINION & EDITORIAL

組合メンバーズカードの意義を再確認する

当組合は今年で創立二十五周年を迎えます。その間、さまざまな活動を行ってきましたが、各組合員の事業にとって重要な行商従業者証(メンバーズカード)と営業所標識の制定経緯とその意義をあらためて取り上げます。

一理事長時代の平成八年五月二日、国家公安委員会委員長より正式承認され、同日付の官報に告示されました。

の体裁を取り、公安委員会が発行する古物商許可証と同等の役割を果たしてきました。私たちは今後とも、公に認められた価値を大いに活用するとともに、相応の責任と義務を負っていかなくてはなりません。

2012.5.15 VOL.5

発行人 深海信彦
 発行所 全国刀剣商業協同組合
 〒169-0072 東京都新宿区大久保2-18-10
 新宿スカイプラザ1302
 TEL:03(3205)0601 FAX:03(3205)0089
 http://www.zentosho.com

編集委員	朝倉平隆	忠将隆徹	飯川嶋高	慶貴夫	飯田齋	久恒孝
伊波賢一	大齋新土	斎藤隆正	藤野義輝	島田浩一	藤清水	恒正
齋藤生野	玉井深宮	野井義信	深宮琢	高松持	高橋部本	法正
				川松浩	服部本	治行
				田吉具	松本	義

●第25回通常総会開催迫る
 来る五月十七日、東京美術倶楽部において第二十五回通常総会と組合交換会が開催されます。

- ・平成二十三年事業報告
- ・平成二十三年決算報告
- ・平成二十四年度事業計画
- ・平成二十四年度収支予算
- ・役員報酬の件
- ・経費の賦課および徴収に関する件
- ・平成二十四年度借入金残高の最高限度に関する件
- ・一組合員に対する貸し付け、または一組合員の為にする債務保証の残高の最高限度額に関する件
- ・その他

また、同日に行われる通常交換会においては、総会のため例年多数の出席者があり、一年を通して最も活発な取引が行われております。こちらも奮って参加をお願いします。

する防犯等の協力はもちろん、文化庁や教育委員会の刀剣行政にも最大の協力をしていくこととなります。

われわれ組合員全員がメリッと享受し、繁栄し、業界の社会的地位向上を図っていくには、まず全刀商が公に恥じない刀剣界を目指す先頭に立つべきの気概が必要でしょう。

美術刀剣・刀装小道具商
やしま
 齋藤雅稔・隆久・隆洋

刀装小道具通信販売目録
 「やしま」
 年間10回発行予定
 購読料10回 2,000円 (郵便切手可)

刀剣・刀装小道具高価買入

〒202-0022
 西東京市柳沢6-8-10
 TEL 042-463-5310
 FAX 042-463-7955
 営業時間 午前9時~午後6時
 定休日 毎日曜日・祝日

金工・刀身彫刻・修理・諸工作一式
柳匠堂
柳村宗寿

工房
 〒700-0827 岡山市北区平和町二一八
 電話(〇八六)二二三二二一九
 〒700-0826 岡山市北区磨屋町七二二一
 電話・FAX(〇八六)二二三二二二九

甲冑 刀剣 刀装具 古美術一般
福隆美術工芸
 代表 **網取譲一**

〒104-0061 東京都中央区銀座二二二一四
 TEL/FAX 〇三三三五四一八二〇九

刀剣古美術
三峯美術店
町田久雄

埼玉県秩父市野坂町一十六一
 西武秩父駅連絡通路町久ビル内
 TEL/FAX 〇四九四一三三三〇六七

美術刀剣、小道具、武具類の
 売買、加工及び御相談承ります
大阪刀剣会 吉井唯夫

大阪市中央区日本橋二丁目七番一
 電話 〇六(六六三)二二一〇番
 FAX 〇六(六六四)五四六四番

日本美術刀剣保存協会、公益財団法人に認定さる

財団法人日本美術刀剣保存協会は三月二十一日、内閣総理大臣より認定書が交付され、四月一日に設立登記を完了、「公益財団法人日本美術刀剣保存協会」(以下「日刀保」として新たにスタートしました。

平成二十年に施行された公益法人三法(通称)により、各界で認定取得にかかわる大きな動きが見られましたが、日刀保もその取得を方針に掲げて準備を重ね、それが実現したものの、このほど『刀剣界』編集委員会ではその取材に伺いました。

後藤安孝事務局長の話による



右から後藤事務局長、小野会長、編集委員4名(伊波・清水・服部・嶋田)

と、定款はじめ諸規則・規程の膨大な資料を約一年がかりで整え、昨年九月三十日、公益財団法人への移行認定を申請、本年二月二十三日、公益認定等委員会へ内閣府担当官からの諮問の後、「認定基準に適合すると認めるのが相当である」との答申に至ったそうです。答申書は、公益法人情報ウェブにて公開されています。

日刀保の公益認定については、鑑定業務が収益事業ではないかなど、その扱いを心配する声もありましたが、刀剣鑑定による真贋や格付けが、一般に刀剣をわかりやすくする点と、その収益分を公益事業支出に充当していく点などが認められたとのこと。また公益認定と並行して、空席だった会長職に小野裕氏(前専務理事)が就任。公益認定の慶事について伺ったわれわれ取材班のところへ気さくに同席して

審査料金表

平成24年4月1日改正

	取扱種別	料 金		
		合 格	不合格・現状	
保 存	刀 剣	会 員	25,000円	10,000円
		非会員	27,000円	12,000円
	刀 装	会 員	25,000円	10,000円
		非会員	27,000円	12,000円
	刀装具	会 員	17,000円	7,000円
		非会員	19,000円	9,000円
特別保存	刀 剣	保存付/会 員	35,000円	10,000円
		保存付/非会員	37,000円	12,000円
		同時申請/会 員	30,000円	10,000円
		同時申請/非会員	32,000円	12,000円
	刀 装	保存付/会 員	35,000円	10,000円
		保存付/非会員	37,000円	12,000円
		同時申請/会 員	30,000円	10,000円
		同時申請/非会員	32,000円	12,000円
	刀装具	保存付/会 員	30,000円	7,000円
		保存付/非会員	32,000円	9,000円
		同時申請/会 員	27,000円	7,000円
		同時申請/非会員	29,000円	9,000円
重 要	刀 剣	会 員	220,000円	21,000円
		非会員	240,000円	41,000円
	刀 装	会 員	220,000円	21,000円
		非会員	240,000円	41,000円
	刀装具	会 員	120,000円	15,000円
		非会員	140,000円	35,000円
特別重要	刀 剣	会 員	340,000円	31,000円
		非会員	360,000円	51,000円
	刀 装	会 員	340,000円	31,000円
		非会員	360,000円	51,000円
	刀装具	会 員	240,000円	21,000円
		非会員	260,000円	41,000円

いただきました。小野新会長は、新しい日刀保について「いろいろなことがあったが、運営には公明性・公共性を取り入れ、開かれた協会を目指している。古き良き伝統は引き継ぐが、新しい法人として生まれ変わって運営するので、ご理解をいただきたい」、また、「協力団体となる支部にも、公益性ある事業には支援をしていく」と話されました。詳細は随時、日刀保のホームページをご覧ください。

日刀保で審査料金を改定

公益財団法人日本美術刀剣保存協会は、四月一日より刀剣類の審査料金を改定しました。改正の要旨は、

- ①刀装具の集合体である刀装の審査負担の考慮
- ②終了から三十年経過した旧認定制度(特別貴重・甲種特別貴重)の各便宜を廃止
- ③申請の公益性
- ④事務処理の簡便化

であり、主な内容は以下の通りです。

- ・刀装審査料と刀剣審査料を同額に変更
- ・旧認定書付帯による保存・特別保存申請の割引および受付廃止
- ・特別保存の値下げ、および同時申請、同時合格の割引
- ・重要申請は、特別保存物件に限る
- ・重要・特別重要な合格審査料の値上げ
- ・内税方式導入により千円単位の審査料設定
- ・全審査が会員・非会員とも申請可能(料金区別あり)
- ・具体的には、会員が刀剣審査で合格した場合、重要や特別重要は料金上がる一方、特別保存のみ申請は一万六千四百五十円、保存・特別保存同時申請は二万六千円、それぞれ値下げされます。また、内税とした申請料金は、消費税率が上昇しても当分は現状維持とし、利便性を図るとしています。

さらに、重要申請には特別保存の合格が前提となり、刀装具に関しては六月の審査を経ないと申請できなくなるため、制度移行本年に限り、七月に重要申請を前提とした刀装具の特別保存受付をします。

なお、刀装具の七月審査は、全刀商より申し入れた要望を受け入れていただき、実現したものです。(伊波賢一)



風向計

深海 信彦

刀剣業界にはさまざまな風が吹いてくる。そしてまた、多種多様な潮の流れもある。その風向きや潮の満ち干を見極めるのは大変に困難なことで、政府や日銀でさえ経済見直しはままならず、評論家やアナリストたちさえも一カ月先までの景気観測には各人によって大きなバラツキがある。

わが業界も日本経済、ひいては世界経済の情勢に無関係ではいられないが、毎日の新聞等の報道に一喜一憂するほどの相場変動はない。しかし、報道の内容によって刀剣や鎧小道具の愛好家のマインドに深く影響を及ぼすことは事実である。

「失われた十年」とも言われているが、バブル崩壊元年の平成三年以降、平成十九年末までのおよそ十六年間は強弱の風が吹き、潮の勢いを荒らめた時期もあるにはあったが、刀剣業界は比較的安定しており、顧客の購買意欲にも別段の陰りは見当たらず、従っておおむね順風であつたと言えよう。

もちろん、業界と一口で言っても個々の事情や業態などには差異があり、十六年間に概して語るにはあまりに粗雑に過ぎるが、顧客と対面販売・仕入れする刀剣店などの売り上げ動向が全体の景況感を推し量るバロメーターであるとするれば、大きく見て平穏であつたという見方ができる。

風向きが一気に変わり、まさ

に潮の流れが逆流するかのような異変が起こつたのが平成十九年十二月、アメリカのリーマンショックに端を発する経済不況である。それはやがて欧州ユーロ圏諸国の債務問題にまで波及し、世界経済はかつて見えないほどの深刻な状況に陥り、わが業界の顧客の心胆を寒からしめたのであつた。

さらに、それに追い打ちをかける出来事が先の東日本一帯を襲つた地震と大津波、それに伴う原発問題であつた。この未曾有の大災害は、被災地に壊滅的な被害をもたらしたのみでなく、当事者以外にも多方面にわたつて人の心や経済に影響を及ぼした。殊に刀剣愛好家には優しい人が多く、被災地の悲しみに対して、趣味に興じている場合ではないという心理が働くのである。

購入する側に、買い控え現象が生じて販売規模が縮小し、市場に出回る商品に対して指し値が下がる、いわゆるデフレスパイラルの様相が色濃く業界に蔓延したのであつた。

しかし、大震災から一年が経過したこの三月後半から四月にかけて、世界や日本経済の諸情勢の改善に伴い、わが業界にもわずかながら追い風の曙光が感じられ、底を脱したかの気配が市場には流れている。

さて、本欄の趣旨は、世界や日本経済に言及するなどの大それたものではなく、この狭い業界に吹く風と、底流の動きを観測することにある。

冒頭に述べたように、景気予測は容易なことではなく、今日のよきな閉塞感充満の中で風向きは絶えず変化し、ましてや人心によつても大きく左右される商況判断は困難を極める。

ところが幸いなことに、業界に長くいると、風に「記憶」が生まれるから不思議である。どのような風が吹いても、その風はかつて吹いたことのない方向からはやっこない。必ず東西南北等の八方位もしくは十六方位からである。

バロメーターという言葉を使つたが、それは気圧計のことである。風向計はアナネスコープ、風速計はアナメーター。このような計器を景気(！)判定するたどえに使つたのは先人の知恵であるが、計器は正確に方位や風速を示すが記憶することはできない。それに引き換え、人間は記憶することができる。肌

に感じる風は何年か何十年前に吹いた風である。その風の記憶をたどれば、風の指す方向もかすかにわかる。先のことまではわからないまでも、数力月の風向きはわかるはずである。

本欄は連載が予定されているが、今回は五月初旬に発行された、次号は七月十五日の予定である。従つて、今回は五月半ばから七月半ばまでの二カ月間の風向きを、過去の記憶と現在の状況を重ね合わせて観測すればよいわけである。紙面の都合で多くを書けないが、この二カ月間に限り、風向きはおおむね良好で風速も緩やかであると予測される。

視点・論点

次号からは差し障りのない程度で具体的な事例を挙げ、景況判断の一助となるよう本欄を機能させていきたいと考えている

が、果たしてここまで客観性が保たれるか心もとない。読者諸賢の切なる理解を願うばかりである。

俄国一博士の言葉

日本刀の関係者、殊に作刀や和鉄製造に携わる者にとって、俄国一博士の名は格別に重い。それは一に大著『日本刀の科学的研究』をもつてである。

同書は昭和二十八年の出版で、五十七年には復刻もされている。一方で、内容の一部は旧版『日本刀講座』(九年)や同再編集版にも収録されている。

依博士は日本刀の専門家ではない。鉄鋼冶金学の泰斗であつて、東京帝大教授、同工學部長、日本鋳業協会会長などを務め、昭和二十一年には文化勲章を受章している。

その博士が、なぜ日本刀の研究に取り組んだのか。博士は明治三十一、二、三年ごろ、中国地方の砂鉄製錬現場を踏査し、その詳細な記録を後に『古来の砂鉄製錬法―たたら吹製鉄法』に著した。今、記録を集めておかないと、わが国独特の製鉄技術は消えてしまふ、それでは日本刀のような原料も知り得なくなつてしまふではないか、製鉄技術の学を修めた者の務めとしてこれを行ふのだ、と。たたら研究に向かつた二十歳代半ばの熱い思いが、ドイツ留学を挟んで、日本刀にたどり着く。

「どうも日本刀は、日本人には何となく違った感じのするものであるから、今日の進歩した学術上の手段でその記録を取つておく必要がある、どうしてもしななくちゃならぬような気が致しました。なほその上



二段としては、その結果を実際に製造法に適用して刀匠に試作してもらい、各伝に見られる特徴を得ること。研究の成果として、ほぼ第一の目的は達したが、これを応用することには手がつかず、実用を伴わぬ結果に終わったことは遺憾である」

膨大な研究を経て、依博士は箴言を残している。「日本刀の世界に冠たる所以は、技術にあらず、技工にあらず、刀工の人格にあり」。これは、科学者でありながら、究めようとして究め尽くせない日本刀の深さを率直に認め、それ故にこそ、比類のない価値があるのだ、と語りかけているようでもある。所持する者も、鑑賞する者も、銘すべき言葉であらう。(下)

刀剣・小道具・甲冑武具
創業明治十三年
目白 **飯田高遠堂**
代表取締役 飯田慶久

〈JR山手線目白駅下車徒歩左へ3分〉

営業時間 午前10時～午後6時
定休日 水曜・土曜(日曜営業中)

〒161-0033
東京都新宿区下落合3-17-33

T E L 03(3951)3312
F A X 03(3951)3615

<http://www.iidakoendo.com>

(株)美術刀剣松本
松本 富夫 義行

野田会(刀剣・刀装具)市場
毎月3日・19日開催

〒278-0043
千葉県野田市清水 199-1

T E L 04-7122-1122
F A X 04-7122-1950

E-mail info@touken-matsumoto.jp

www.touken-matsumoto.jp

美術日本刀・鎧・小道具・甲冑
日本の伝統文化を彩る
JAPAN SWORD CO., LTD.

地下鉄虎ノ門駅2番出口より直進、徒歩3分(日祝休)

(株)日本刀剣
伊波賢一 Ken-ichi Inami

〒105-0001
東京都港区虎ノ門3-8-1

T E L 03-3434-4321
F A X 03-3434-4324

銀座 **泰文堂**

「刀剣画報」
実寸大通信販売カタログ
年6回発行 年間購読料4,000円

〒104-0061
東京都中央区銀座4-3-11
松崎煎餅ビル4階

(株)銀座泰文堂 代表 川島貴敏

T E L 03-3563-2551
F A X 03-3563-2553

フリーダイヤル 0120-402037

<http://www.taibundo.com>

刀剣 高吉

古名刀から現代刀、御刀のことならお任せください!

連絡先
090-8845-2222

60回までの低金利刀剣クレジットお取り扱い

〒114-0023
東京都北区滝野川7-16-6

電話 03-5394-1118
F A X 03-5394-1116

営業時間 11時～19時
月曜日定休(祝日は営業)

代表者 高島吉童

www.premi.co.jp

私が出会った珍品

鉄錆地一枚張り兜と鉄錆地一枚胴具足

前後に長く感じる形状、天辺近くがくびれる形状、一枚の鉄板からこの形を造形するのどのれほどの技術を要するのだろうか。それに、雲の形の打ち出しを設けた眉庇、流線形とも言える特異な形状の袴、天辺の金具などが付く。

この袴と同じ後ろ下方向になびくような意匠の袖が、寛文年紀のある雲海光尚の作群の中にあり、雲海派の作の兜かと容易に連想できる。

しかし、技巧的な眉庇の打ち出しはその後の時代の加賀の具足を担う小嶋派の作によるものかとも考えられ、無銘なのが惜しまれる。

また、さらに打ち出したよう



に見せている竜のレリーフはアップリケ構造でも言うのだろうか。実は同作者によって別々に作られたものが張り付いている。今もってわからないのは着けたラクリが兜の裏にはなく、どう接着したかだ。この兜は単体ではなく、皆具の具足となっている。

平成初期に、東急線の若者や

女性に人気の街で営業されていた同業者の某氏よりいただいた後、川崎市の愛好家にも持ってもらう。

そのとき、既に猪山成之の所有者名のある槍標が共にあったが、気にも留めなかった。その愛好家が下取りに出されたので再び当店に戻り、二〇〇四年の大刀剣市に出品したところ関西

の愛好家が気づく。「綱取さん、猪山成之を知らないの?」と。聞けば加賀藩御算用方の家系で、岩波新書から茨城大准教授磯田道史氏が『武士の家計簿』を出版しており、その舞台が猪山家だという。

時、既に遅い。プライスカードに超良心的すぎる価格をさらしている。「ギャーツ、著名所有者を見逃し、俺は二度も儲け損なったのか」……などと声に出して嘆いている場合ではなかった。その安さなら欲しいという方が、教えてくれた関西の数寄者さん以外にも出てきてしまったのだ。

結果、くじ引きをしてみようことに。教えてくれた関西の愛好家に涙を飲んでいただくという後味の悪い結果となった。一方で、ゲットしたのは箱根仙石原で甲冑の小さな博物館を営む初老の紳士。

運命とは細い糸を手繰るようなものなのか。下取りに出していた川崎市の愛好家の南相馬市右田の実家が昨年、震災と津波に襲われ、かえすがえすも気の毒に親族や家財を失う。運命を共にしなかったこの具足は「箱根もののふの里美術館」

という湯けむり近くの場所で静かにその余生を送っている。この春には板橋区立郷土資料館の当世具足展に友情出張し、現在の猪山家の人々とも再会を果たした。金沢への里帰り展も構想に入った。



箱根もののふの里美術館

組合こよみ (平成24年3月~4月)

- 3月8日 『刀剣界』第4号編集委員会を開催。出席者、深海理事長・齋藤常務理事・綱取理事・服部理事・持田監事・土子民夫
- 3月16日 『刀剣界』第4号を発送
- 3月17日 東京美術倶楽部にて組合交換会を開催。参加60名。出来高23,649,000円
- 4月5日 『刀剣界』取材のため公益財団法人日本美術刀剣保存協会を訪問。清水専務理事・伊波常務理事・嶋田理事・服部理事
- 4月16日 平成23年度の会計監査を実施。赤荻監事・持田監事。立ち会い清水専務理事・服部理事
- 4月17日 東京美術倶楽部にて組合交換会を開催。参加63名。出来高43,723,000円
- 4月17日 東京美術倶楽部にて理事会を開催。出席者、深海理事長・猿田副理事長・土肥副理事長・川島副理事長・清水専務理事・齋藤常務理事・青木理事・朝倉理事・飯田理事・嶋田理事・新堀理事・高橋理事・綱取理事・服部理事・冥賀理事・吉井理事。橋本健一郎・村上和比子両名の組合入会を承認
- 4月17日 『全刀商』編集委員会を開催。出席者、深海理事長・清水専務理事・嶋田理事・綱取理事・服部理事・冥賀理事・持田監事・飯田慶雄・大平将広・齋藤隆久・藤岡弘之・松本義行・宮澤琢・土子民夫

全刀商の活動紹介 (経済委員会) 組合交換会決済システムについて (その2)

刀剣交換会は、都内だけを見ても月に十力所以上で開催されています。三日おきに市が立つというわけですが

当組合主催の会のような法人が主催するもののほか、出席者全員が一定の資金を拠出して開催する共同会、個人が主催する個人会、個人会と共同会の中間の形態で数人の複数会主が運営するものもあります。

いずれの交換会も、売主には当日全額払いする方式が定着しているようです。以前は三ヶ月分割払いが結構ありましたが、

当日全額払いの会が現ればどうしても取引がそちらに流れてしまいますので、どの会も右へならぬというところでしょう。

当日全額払いは必然的に発足時、相額の資金の用意が必要で、多額の現金は移動、払い出し、集計等で、担当者らに神経消耗を強いることになります。

近年新たに発足した交換会はいろいろな決済方法の導入を試みていて、興味深いです。小切手払いは既に導入されていますが、インターネットを駆使したオンライン決済システム



なるものも現れました。新しいもの好きの関西の交換会でもまだ採用されていないようですが、東京では動き出しました。

これは極端に言うところ、売り手が交換会で売却した瞬間に、手数料を引いた売却代金が売り手の銀行口座に振入金される仕組みです。帳場のPC端末の操作で処理するわけですが、会員の口座がネットと接続されてい

るので即入金となるのです。まるで交換会会場にATMがあるような感覚です。このシステムは安全・迅速・

NEWS & TOPICS 古美術品輸出監査証明の変更について

- ①登録銃砲刀剣類も含むすべての鑑査証明の有効期間が一月一年になります。ただし、従来通り、一回の輸出に限り有効です。
 - ②銃砲刀剣類登録証は、表面の写しの提出となります。登録証の原本は、登録銃砲刀剣類を輸出後、登録事務を行った都道府県教育委員会に直接返却します。
 - ③申請者以外の方(代理人)が手続きを行う場合、申請者が依頼した内容や代理人が確認できる書類(委任状)の提出が必要になります。
 - ④窓口申請の際、本人(代理人)の氏名等が確認できるものの提示が求められます。
- 上記の変更に伴い、申請書の様式が変更になります。新様式(電子媒体)をお求めの方は文化庁美術学芸課(☎〇三三-五二五三-四一一一(代表))まで連絡のこと。(詳細は次号)



小嶋館長

小嶋君よ、どんな

箱根の館長も今は代が変わり、三代目は女性館長、小嶋里美さんという方。そう、これも縁なのか、この兜の製作者とも鑑定できる小嶋宗直派と同じ名字とは……こじつけすぎか。

に儲け損なっても、俺はこれで良かったんだと思いたい。くじ引きですっこけた関西の数寄者さんも、機嫌良く職場に来てくれる。救いたよな。湿生植物園の隣で、美形の館長さんの元で余生を送るお前が俺にはうらやましいよ。(綱取譲一)

刀と法律 ABC

第4回

登録証に関すること

前回までは登録証が発行されるまでの手続きについてお話ししてきましたが、今回は登録証について解説します。

昭和二十五年以降に発行されている現在の銃砲刀剣類登録証とは別に、戦後さまざまな所持許可証が発行されましたが、現在では通用しません。このような許可証の付いている刀剣類をお持ちの方は、速やかに所轄の警察署または都道府県教育委員会に相談し、新規に銃砲刀剣類登録証の申請をしましょう。交付された登録証は、紛失しないように大切に保管しておき

ましよう。万が一登録証を紛失した場合、まずは所轄の警察署に亡失・盗難・滅失の届け出をします。その際の届け出番号と申請日を記録し、登録証の亡失・盗難・滅失理由書、登録証再交付の申請書とともに都道府県教育委員会へ提出する必要があります。

登録証のコピーや控えがあり、登録番号がわかっている場合は、すぐに再交付を受けることができますので、お手元の登録証はコピーするか、内容を記載しておくことをお忘れなく。

登録証が発行された刀剣類は登録証を申請した人に限らず、売買や譲渡により誰でもその刀を所持することが可能となります。ただし、その場合には銃砲刀剣類等所有者変更届を、その刀が登録されている都道府県教育委員会に二十日以内に提出する義務があります。最近の登録証では少なからずましたが、登録証には記載事項に誤りがある場合があります。

(朝倉忠史)

お知らせとお願い

■本紙購読について 『刀剣界』は隔月で発行しています。購読料は無料です。組合員・賛助会員以外の方で継続購読を希望される方は、組合員でお申し込みをお願いします。なお、お手数ですが、年間送料実費として四八〇円をお送りください。

■情報を募集しています 本紙は組合の機関紙であることも、紙名の「刀剣界」を網羅し、斯界に役立つ情報紙であることを願っています。つきましては、広く情報をお寄せくださるようお願いいたします。イベント・レポート、催事情報をはじめ、ご覧になった新聞や雑誌記事、TV番組の

■お申し込み・お問い合わせ先 全国刀剣商業協同組合(全刀商) 〒169-0072 東京都新宿区大久保二二八二〇 新宿スカイプラザ一三〇二一 TEL03(32205)0601 FAX03(32205)0089

感想、エピソードなど、何でも結構です。ただし、紙面の関係で編集させていただくことがありますので、ご承知おきください。

■広告募集中です

広告も読者にとっては有益な情報の一つです。本紙では記事とともに順次、広告欄の充実も期してまいります。料金は、2段5分の1(縦96mm×横48mm)、年間六回で六万円です。ただし、編集委員会の審査によりご希望に沿えない場合もあります。詳しくお知らせになりたい際は組合にお問い合わせください。

刀剣商リレー訪問⑤

朝倉忠史さん

日本刀の美しさを伝える名店

今回ご紹介する刀剣商は、長野県の永和堂店主・朝倉忠史さん、四十七歳です。

お店はJR長野駅から徒歩十分、長野県庁近くの大通り沿いにあり、七年前に改装された店内はとても綺麗です。現在の永和堂は昭和五十二年の開業ですが、その前身は会長である父の万幸氏の趣味が高じて、上田市の自宅で開いた万葉堂であるとのこと。

忠史さんは高校を卒業した後、かねてから希望していたイギリスへの留学を果たし、語学学校を経て大学の経営経済学部を卒業。帰国後は、お父上の勤めもあって市ヶ谷にある靖雅堂夏目美術店にて五年間修業されました。そのころは主に絵を取

り扱っていましたが、地元に戻ってから刀の勉強をされ、永和堂を任されて今に至るそうです。

郷土刀でもある山浦物を得意とし、日本全国どこでも赴くフットワークの良さが売りです。現在は、特に新規顧客の開拓を心がけているとのこと。

日本刀は古美術品の中で最も歴史が古く、一番品格の高い美術品であるという万幸氏の信条に基づき、店内でも展示即売会でも多くは飾らない、むやみやたらに人目にさらさない、というのが永和堂流。大刀剣市の店舗設計や展示でも、その高級感

は群を抜いていて、品物をいかに美しく魅せるか、という意思が見る者に伝わります。これには筆者も同業者ながら勉強させられました。全刀商の大刀剣市以外にも、独自展示即売会を毎年開催。今年も長野東急百貨店の美術サロンにて四月十九〜二十五日に「武士の表道具―大刀剣市」を開催されました。

永和堂と朝倉忠史さん



お店 〇三三〇〇
〇〇〇〇六 長野市南町一三六
〇二六二二八
〇〇〇一 (大平将広)

刀職紹介

第5回

〈研師〉井上 聡さん



井上聡さんは、昭和四十七年生まれの四十歳。幼少のころから日本刀が好きで、ナイフの自作などもされていましたが、平成二年に藤代興里師入門、同十八年に独立されました。

修業中の平成十五年に行われた第五十五回刀剣研磨・外装技術発表会では最高賞の木犀賞を受賞、ほかにも特賞の千葉賞や優秀賞を七回、努力賞を五回受賞するなど、立派な成績を残しておられます。

そんな井上さんですが、平成十一年に刀剣研磨から逃げたくなり、一度実家に戻られたそうです。しかし、師匠の度重なる説教により、翌年に再入門。

藤代師によれば、井上さんは刀剣界では珍しく、刀職などの縁故がないにもかかわらず、この世界に飛び込まれたそうです。また、最初のお弟子さんでもあることから、「最も気に入った弟子の一人です」とのことでした。

井上さんは刀を研ぐ際にも、「刀をなるべく減らさず、少しでも出来が良く見えるようになれば」と願っています。

研磨代金は状態により異なりますが、刀は二十七万円、脇指は二十二万円、短刀は十五万円が目安となっています。連絡先 〇六六二〇〇七 兵庫県西宮市桜町一八九 〇七九八七一五三五九

〈刀匠〉二十五代藤原兼房さん



藤原兼房(本名加藤賀津雄)さんは、昭和三十二年生まれの五十五歳。祖父は二十三代兼房、父は二十四代兼房(孝雄)と、室町時代から続く名門の二十五代目です。

加藤さんは、高校を卒業した昭和五十年に人間国宝である二代月山貞一師入門して鍛刀と彫刻を学びました。同五十七年に作刀承認、五十八年に関へ戻り二十四代に師事、翌年二十五代兼房を襲名して自身の日本刀鍛錬道場を開設されました。

以後、新作刀展では優秀賞を二回、努力賞を十回受賞、平成十七年には初の特賞である蕨山賞を受賞されています。

加藤さんは海外への日本刀の紹介にも熱心で、修業時代の昭和五十七年、月山師とともにポストン美術館で公開実演をしたことに始まり、ロシアのモスクワやサンクトペテルブルク、ドイツのケルンやミュンヘンなどで日本刀鍛錬の実演を行っています。

そんな加藤さんは、「日々鍛錬」の言葉を胸に鍛刀に臨まれているそうです。

なお、製作代金については、刀が二百万円から、脇指が百五十万円から、短刀が百万円からとなっています。連絡先 〇五〇一三三二六五 岐阜県関市小瀬一三三二二 〇五七五二四三〇二二 (川島貴敏)

刀 剣 界

ブック・レビュー BOOK REVIEW

「画題事典」を超える刀装具鑑賞の名著

『刀装具鑑賞画題事典』

福士繁雄著 税込み六〇〇〇円 里文出版

この度、刀装具界の大御所福士繁雄先生が『刀装具鑑賞画題事典』を発売されました。

画題に關しての書籍は今から四十五年ほど前に故沼田鎌次先生が『鐔・小道具画題事典』を著され、喜ばしい限りです。

本書は、福士先生が平成六年より『刀剣美術』に「刀装具の画題」として連載されたものを集大成し、さらに加筆されたものです。画題の内容は、中国故事、日本故事、風物、動物、植物、その他、計三百二十点にも及びます。

特筆されることは、掲載された刀装具(主に鐔、ほかに小柄・縁頭・目貫など)がすべて名品である点がまず挙げられます。

次に、福士先生は写真撮影技術においても、刀装具界では超一流であります。一般のプロ写真家では引き出すことのできない刀装具の本質の美を見事に表現する特殊技術を長年にわたって研究されました。光の当て方で立体感をより引き出し、特に銘のあるものは細かな銘字まで鮮明に見せる、研究家ならではの撮影技術をお持ちです。

今回の八割ほどはカラー写真で、鉄鐔などはあえてモノクロ写真です。しかし、刀装具のカラーほど印刷の難しいものはありません。赤銅地が四分一地に見えたり、真鍮地が実物とかなり異なって印刷されたものを今まで数多く見ておられます。

一方、今回の印刷は、先生が直接撮影され、しかも現物を熟知しているものばかりのほずです。それゆえ、色校正の段階では先生ご自身、あくまで現物に忠実に厳しく指示されたと拝察され、まさに実物そのものを鑑賞しているかのような錯覚に陥るほど、見事に仕上がっています。

画題の解説は誰にでもわかりやすく、活字も大きめで、難しい熟語にはルビが添えられ、実に読みやすくなっています。さらに、一点一点に作風・作者の説明が加えられ、単なる画題の研究だけでなく、刀装具の勉強に非常に役立ちます。

今までの刀剣および刀装具関係の著作には、英訳と言っても巻末に簡単に添えられている程度のもものがほとんどでした。外国の方々には、大変ご不便をかけていたことでしょう。

ところが今回は、同ページの中に英訳が正確で明瞭に添えられています。英訳はご子息の光徳氏が担当されたそうですが、

「好きでたまらぬ」筋金入りの愛鐔家の一書

『鐔—意匠と技の美』

林 盈六 著 税込み二一〇〇円 里文出版

林盈六氏は現在、東大相撲部名誉顧問・医師の立場にあり、旧制中学二年のときからの

愛刀家・愛鐔家にて、まさに筋金入りの御数寄者です。一時は日本美術刀剣保存協会の要職に

鐔

意匠と技の美

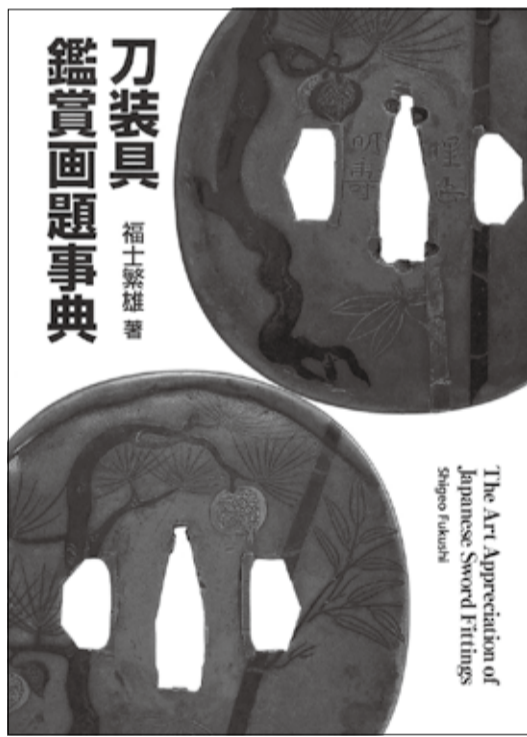
林 盈六



林盈六先生と暮わけています。加島進先生・林盈六先生・松永廣吉先生共著の『日本

鳥居薬品の医家向け隔月刊誌に、十八年にわたり連載したものを、テーマ別に再編集したのが本書であると後書きにあります。執筆するに至るエピソード、すなわち原点は、誠に興味深いものがあります。

また本書には、「鐔の魅力を



氏は先生の一番弟子でもあり、さらに英語が堪能とあって、微妙な表現も生かされています。きつと外国の刀装具愛好家にも喜んでもらえるでしょう。

五十音順にいろいろな角度から理解できるよう工夫が凝らされています。当然、英文も添えられています。

巡って」と題して、研師であると同時に鐔作家である柳川清次氏との対談が収められています。かつてある大家に、鐔を理解するための最も良い方法を尋ねたことがあります。

曰く、「まず自分で製作してみること、これが第一です。次に自分で購入して、経験を積むことが大切です」と、教えていただきました。

本書の、林盈六先生と柳川清次氏との対談においても、両者の独自の思いが、気負いなく淡々と述べられており、面白さのあまり一気に読んでしまいました。(齋藤隆久)

NEWS & TOPICS

岡倉天心の生涯が映画化

現在、東京国立博物館で特別展「ボストン美術館 日本美術の至宝」が開催されているが、折しも同館の日本美術コレクションに深くかかわった岡倉天心の生涯を描く映画の準備が進められている。

浦の六角堂が津波で流されてしまった。「天心」は期せずして五浦六角堂再建と軌を一にする震災復興支援映画となった。再建の様子は映画の中で、天心が建築する風景としても取り入れられる。

言うまでもなく岡倉天心は、思想家・指導者・教育者としてわが国近代美術に大きな足跡を残した人物である。新しい日本画の創作を目指す「日本美術院」の再興を果たし、横山大観や下村観山、菱田春草、木村武山らを育てたことでも知られる。一方、東京美術学校(東京芸大の前身)校長やボストン美術館中国・日本美術部長を務め、東洋や日本の美術を欧米に広めた。

完成を目指し、橋本昌茨城県知事や池田幸雄茨城大学学長、宮田亮平東京芸大学長らが特別顧問を務める「天心」実行委員会では現在、一口一円で寄付を募っている。

映画は「天心」。監督は「オールナイトロング」き・れ・村克弥氏。

寄付した方の名は、映画のエンドロールに記される。また、五十万円以上の寄付のあった企業や団体には、監督自らが一分程度のPRビデオを製作し、DVD発売時に特典映像として収録する。



刀剣春秋

月刊「刀剣春秋」新聞

役立つ情報満載 4コマ刀剣漫画(本山一城著)が面白い! 年間購読料 9,600円

刀剣春秋 縮刷総鑑DVD-ROM(パソコン用)

刀剣業界40年(昭和37年から平成22年)のニュースを凝縮(7,000頁分に相当) 佐藤寒山・本間薫山先生の記事や論考を再発見! 定価19,950円→業者様 特別価格 6,990円

図版 刀銘総覧(普及版)

著名工から三流工までの代表的押形を集成した刀銘図の銘字事典。総数2,200余図を網羅。 定価9,975円→業者様 特別価格 6,990円

書籍の委託販売も承っております。

〈営業部〉〒602-8488 京都市上京区真倉町739-1 TEL(075)441-7747 FAX(075)431-8877

イベント・レポート

日本刀文化振興協会特別鑑賞会

和の雰囲気の中で名刀を堪能

二月二十八日、東京豊島区の目白庭園・赤鳥庵において公益財団法人日本刀文化振興協会主催の特別鑑賞会が開催された。

同財団は、その名の通り、日本刀文化の振興を目的に、隔月で初心者を対象にした鑑賞会を開催してきたが、これとは別に、もっと踏み込んだ高いレベルの鑑賞会を開いてもらいたいという会員の要望に応じて企画されたものである。

本鑑賞会は通常の例会とは違

い、対象を日本刀文化振興協会の会員とし、事前申し込みによる先着二十名限定で行われた。鑑賞刀は銀座長州屋・日本刀

剣・飯田高遠堂の三社が提供、重要美術品四振をはじめ、名品中の名品が集められた。

会場の設営と運営は若手刀職を中心とした有志が行い、講師は飯田高遠堂取締役・飯田慶雄氏が担当した。内容は、慶長の

刀剣目録書として貴重な『解紛記』(黒庵著)を題材に、室町時

代に生きた刀剣鑑定家黒庵の鑑定法と現代のそれとの差異や注視点、今では失われてしまった

名工たちの話題を中心とした。さらに、広井雄一氏による埋忠鑑の解説や、会員の持参した

本阿弥光悦の書が披露されるなど、大変充実した内容となり、第一回特別鑑賞会は大盛況にて閉会した。

鑑賞刀は次の通り。

- ・短刀 国俊(名物)
- ・刀 大左(名物八幡左文字)(重要美術品)
- ・太刀 信包



・短刀 国吉
附天和二年光常折紙

「國家」襲名二十周年を記念して

吉原國家刀匠の個展が、日本橋高島屋六階美術画廊において三月二十八日から四月三日まで開催されました。

三代目「國家」襲名三十周年を記念して、初の個展となった今回、得意とする備前伝一文字

の重花丁子を彷彿させる作品のほか、直刀や、相州伝の寸延ひ短刀など、意欲作が十八点、小刀・火箸・文鎮など小物類も多数出品され、来場者の目を惹きました。

期ごろに出現した湾刀の原型と言われるもので、刀身と柄が共造りになる特殊な形状を見事に再現しております。さらに、柄の装飾と鍔を含めた銀総金具、鞘に緋色の錦地で飾られ、その上品かつ精悍な美に心惹かれま

祝賀会が始まりました。皆さんがワインを片手に、心から楽しんでおられるのを見て、國家刀匠のご人徳をしみじみと感じました。

また、土曜日にはギャラリートークがあり、自ら作品の解説や作刀の思いを丁寧に話されました。会場を埋めたたくさんの来場者からは質問も多く、関心の高さを感じます。

最終日までに実に多くのお客さまが来場され、一振一振お手入れさせていただきながらお手伝いした撤収は、皆さまの反応を想像する楽しい時間でした。

良い作品を作ればお客さまは評価してくださるのだな、と現代刀の未来に大きな希望を見いだせる個展でした。

「次はぜひ自分も」と、決意した若手刀匠は多いのではないのでしょうか。もちろん私もその一人です。(川崎聖平)



個展会場の高島屋美術画廊



大勢のお客さまに語りかける吉原刀匠

アンやお客さまがお越しになり、國家刀匠の人気の高さを伺わせました。夕刻には同会場では同会場でレセプションが催され、諸先生からのご祝辞と乾杯により、和やかで温かな

新しい市場「東京刀剣倶楽部」が誕生

「それでは交換会を始めさせていただきます！」

土肥豊久氏の威勢の良い声が会場中に響きわたった二月二十二日のこの瞬間、東京プリンスホテルにおいて全く新しい交換会「東京刀剣倶楽部」が発足した。

東京刀剣倶楽部は深海信彦、土肥豊久、飯田慶久の三氏による共同出資の交換会であり、東京に新しい交換会が発足するのは筆者の記憶では、業界に入ってから、初めてのことである。初会の参加者は九十人を超え、予想外の参加申し込みの多さに直前に変更となった末広の広大な会場にはつぶ品、成り行き品が所狭しと並べられ、大変な活況となった。本会は「将来の刀剣会の見本となるような明るく公正な交換市場を目指す」との目的の



もと、数々の新しい手法が用いられている。すなわち、競り売りにおけるくじ引きは一切なし。同時発声であってもどこかんとんで競ること。個向かい取

- ・太刀 有俊
- ・太刀 真長(重要美術品)
- ・太刀 国宗(重要美術品)
- ・太刀 助次
- ・脇指 朱銘相模国住人広光
- ・延文三年十一月日(重要美術品)
- ・刀 以南蛮鉄於武州江戸越前康継
- ・刀 越前国北庄住兼植

なお「解紛記」は慶長の活板本として珍重であるだけでなく、刀剣の目録書として価値が高い。五巻の冊子本で、それぞれ巻末に「慶長末丁七月日 黒庵」とあるが、この著者と思われる黒庵とは何者の号であるかは明らかでない。

本間順治博士曰く、「本阿弥光徳ではないか」というが推測の

域を出ない。しかし当時のトップクラス、すなわち日本鑑刀史上最高峰の鑑定家の著者であることは疑う余地がない」と。次回鑑賞会は六月二十二日(火)に予定されており、表題は「日本刀の拵」。詳細は決定次第、左記の同協会ホームページで発表される。
<http://www.nbsk.jp.org/>

引の禁止、必ず競り場において全員の前で売買を行うこと。
・売り順は抽選。順番の変更は一切認めない。交換会は、品物を持ってきてくださった方々によって成り立っているという前提に立ち、キャリア・発言力などの違いはあっても、すべての会員が平等に売り買いを行えるようにとの工夫である。ほかにも、入札の原点到立ち返り、
・入札は百万円以上。以下のものは不成立。また、所轄官庁である警察庁の指導にのっとり、支払いにインターネットを用いた電子送金を導入、即時引き出しを可能とし、また希望者には小切手払い、現金払いなど多彩な支払い方法を準備している。
会則にあえて「当会は若手刀剣商及び後継者の育成に重点を置く」とする(と記載し、各役職に若手を登用することも特色としている)。
当日は新会設立のお祝いにと多くの会員から寄せられたつぶ品の数々が盛り上がり、時には驚くほどの高額落札が見られるなど活発な取引が行われ、大成功となった。
昨今の景気低迷にあえぐ業界の空気を一蹴し、景気向上に向かう一陣の春風になることが期待されている。
※東京刀剣倶楽部は毎月二十二日午前十時から東京プリンスホテル・末広の間(東京都港区芝公園三三二)で開催。(飯田慶雄)

催事情報

星と森の詩美術館

〒948-0101 新潟県十日町市1099-1 ☎025(752)7202

人間国宝認定15周年 刀匠 天田昭次展

重要無形文化財保持者(人間国宝)で当組合顧問でもある刀匠・天田昭次さんの作品展が、4月1日(日)から6月3日(日)まで、十日町市の星と森の詩美術館で開催されている。

天田刀匠が「刀は地鉄」との強い思いから自家製鉄を選び、探求の道を歩み始めてから50年以上がたつ。

本展では、その「天田地鉄」の真骨頂十数口が鑑賞できる。

以下に、会場に掲げられた刀匠の挨拶を転載する。

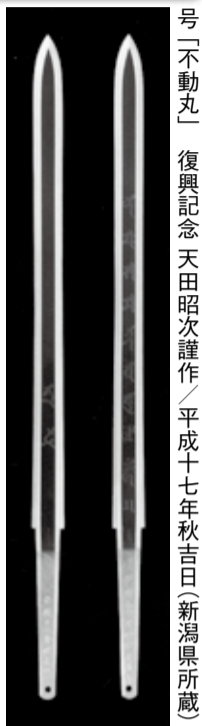
「人間国宝の認定をいただき十五周年、これを機に星と森の詩美術館において折々の作品を展覧し、ご覧願えますことは、誠にありがたく幸せに存じます。

この間、わがふるさとは度重なる激甚災害に見舞われてきました。そして昨年三月十一日には未曾有の東日本大震災が発生しました。被災された皆さま方には一日も早く平穏な暮らしが戻ることを祈るばかりです。願われれば、くろがねの美しさを一

途に追い求めてきましたが、古来、日本刀には邪を祓い、国を護り、人々の幸福を果らせる願いも込められてきました。私の一作一作にも、その時々、込めた思いが蘇ってまいります。

いまだ高峰を仰ぎつつ精進を重ねる身ではありますが、本展の作品を見て、心に少しでも温もりや活気を感じていただけたなら、本懐これに過ぐるものはありません。

なにとぞよろしくお願い申し上げます。」



号「不動丸」 復興記念 天田昭次謹作 / 平成十七年秋吉日(新潟県所蔵)

- ・国宝 沃懸地酢漿平文兵車鎖太刀 鎌倉時代
- ・国宝 金装花押散兵車鎖太刀 南北朝時代
- ・重文 錦包太刀(中身銘「助行」) 鎌倉時代
- ・重文 三鈷柄藤巻劔 鎌倉時代
- ・重文 赤銅造太刀(中身銘「友成」) 鎌倉時代

- ・重文 金銅柏文兵車鎖太刀 南北朝時代
- ・重文 太刀 銘「家助」室町時代
- ・重文 柏木菟腰刀 南北朝時代
- ・重文 梅花皮造腰刀 南北朝時代
- ・重文 菊造腰刀 南北朝時代

板橋区立郷土資料館

〒175-0092 東京都板橋区赤塚5-35-25 ☎03(5998)0081

温故創新～今、蘇る古人の心と技、現代甲冑師と刀装～

日本における甲冑の出現は古墳時代にさかのぼると言われるが、時代を経るごとにその機能・形・用途は変化してきた。それとともに作り手である甲冑師の技術も伝承され、現代まで受け継がれてきた。

今回は、地元板橋で活動する三浦公法氏の作品をはじめ、現在甲冑師として活動する人たちの力作に脚光を当てる。併せて刀装にかかわる作品も展示する。

会期：4月21日(土)～6月24日(日)
製作者：加藤一青・橋斌・三浦公法 熱田伸道・西岡文夫・豊田勝彦・森崎干城(以上甲冑師)・上野修路(中世工芸研究制作家)・宮島進二郎(白銀師) (綱取譲一)



式年遷宮記念 せんぐう館

〒516-0042 三重県伊勢市外宮まがたま池 ☎0596(22)6263

開館特別企画展「海と森と神～重浪帰する国～」

「日本人の心のふるさと」とも言われる伊勢の神宮は、古くから多くの参拝者を迎えてきた。江戸時代には「一生に一度はお伊勢参り」などと、人々のあこがれの旅でもあった。近年では若者たちの参詣も際だって増えているという。平成25年には第62回式年遷宮が執り行われるが、この機に一層の注目が集まると思われる。

去る4月7日、今次の遷宮を記念して「せんぐう館」が誕生した。せんぐう館は、1300年の歴史を有する式年遷宮の意義と、社殿造営や御装束神宝の技術を未来へ継承するため、神宮・式年遷宮・神道について理解する展示と、さまざまな講演・講座を企画している。

開館特別企画展のメインテーマである「重浪帰する国」とは、天照大神がご託宣で伊勢の地を「常世(海の彼方にある理想郷)の波がしきりに打ち寄せる国である」と称したことになむ。本展では、神宮の営みと海とのかかわりについて、わが国の姿と豊かな恵みをとらえている。



せんぐう館と奉納舞台

春日大社 宝物殿

〒630-8212 奈良市春日野町160 ☎0742(22)7788

国宝赤糸威大鎧(梅鶯飾)修理記念 鎧と武士の晴れ姿

春日大社には、全国に知られる鎧や刀剣が伝わっているが、その中でも国宝赤糸威大鎧(梅鶯飾)、国宝赤糸威大鎧(竹虎雀飾)は、甲冑史上最も華麗で古様を留めた名品として著名である。本展示では、平成22・23年度と引き続き修理が行われ、本来の魅力と輝きを取り戻した2つの鎧と、刀剣の名品など、武士の晴れ姿を彩った下記の名宝を見ることができ

会期：4月1日(日)～7月31日(火)

- 〈甲冑武具類〉(展示替えあり)
- ・国宝 赤糸威大鎧(竹虎雀飾) 鎌倉時代
 - ・国宝 赤糸威大鎧(梅鶯飾) 鎌倉時代
 - ・国宝 黒韋威矢筈札胴丸 南北朝時代(4月中)
 - ・重文 黒韋威胴丸 南北朝時代
 - ・重文 鉄十八間四方白星兜鉢・鎧金具 平安時代
 - ・重文 鉄二十八間四方白星兜鉢・鎧金具 鎌倉時代
 - ・重文 鉄三十六間四方白星兜鉢・鎧金具 鎌倉時代
- 〈刀剣類〉
- ・国宝 沃懸地獅子文毛抜形太刀(刀身) 鎌倉時代



- (1列目右から) 齋藤忠重、令夫人ツルコ、関本満、令嬢ヨウ子、令夫人、齋藤一郎令夫人、(1人置いて) 小松邦芳令夫人、多田喜一
- (2列目右から) 寺峰徳、遠藤孫蔵、中宮峯二(敬堂)、小松邦芳、加島勲、林田等(蘇堂)、三木莊三郎
- (3列目右から) 榎田發郎、吉野力蔵、山本理一郎、福島(鳩巢堂)、山中巖、羽根田慶次郎、鈴木有賀、松島敏男(礼志)、齋藤光喜、秋元章吉(繁雄)、上久保元勝、大藪良辰、大藪(令弟)
- (4列目右から) 大西時治、榎田發郎令息、(1人置いて) 中宮好郎、柴田光男、齋藤隆年(雅稔)、高須富士男、令夫人、平島直、吉野辰雄、齋藤一郎、春田武一、小泉世至男 (敬称略)

一葉の記憶

「刀剣界昔話」

戦後初めての刀剣商の集合写真

昭和二十一年から二十三年ごろの主たる刀剣会は榮久會である。高田馬場の諏訪町にあった服部家の邸宅を会場にして、約四十名の刀剣商が参集していた。この当時はGHQの統制が強く、日本の警察は「闇物資」を取り締まる時代にて、世相は誠に厳しく、刀剣を生業とする人々にとっては「暗黒」の時代である。

その後、時代が落ちていくと、榮久會の主なメンバーが、会場を小松邦芳さんの資料置き場であった新橋四丁目二十二の地に移し、「刀剣会社(株式会社ではない)の名の下に市場を開催することになる。昭和二十四年から二十六年の約三年間である。

この組織は、昭和二十七年四月一日に、警視庁主導により「東京美術刀剣商協同組合」となる。新しい時代の幕開けである。現在、毎月二十日に市場が開かれる「東刀会」は、この延長線上にある。掲出の写真は、昭和二十五年の秋、「刀剣会社」の呼びかけに応じて、全国から伊豆山の旅荘「中田屋」に参じた刀剣商の、戦後初めての集合写真である。

(齋藤隆久)